

サステナビリティと年金運用

【プログラム】

13:30 – 14:15

Session 1

地政学リスクとESG

資産運用に対して紛争や政局、様々な規制の変化が与える衝撃はますます顕著になっています。地政学リスクが企業のサプライチェーンや資源価格の安定性をゆるがし、また政治が「ESG」投資のあり方を左右している状況です。本セッションでは、米大統領選を控える中で、今後の地政学リスクとそれがESG及び資産運用にもたらす影響について、コンサルタント、株式ストラテジスト、エコノミストがそれぞれの立場から議論します。

パネリスト：



飯塚 尚己

コンサルティング会社「合同会社アイ・アール・アイ」
代表

1994年早稲田大学大学院経済学研究科終了（経済学修士）後、株式会社富士総合研究所入社。みずほ総合研究所シニアエコノミスト、第一生命経済研究首席エコノミスト、シティグループ証券チーフ日本株ストラテジスト、BNPパリバ証券株式ストラテジストなどを歴任。過去26年間にわたり、国内外の機関投資家や政策担当者らとグローバル経済・金融市場や投資戦略に関する議論を行っている。2022年11月より現職。コーポレートガバナンスやサステナビリティ経営に詳しく、グローバル経済分析や地政学的リスクの分析にも精通している。2017年に優れたエコノミストに送られる景気循環学会・中原奨励賞を受賞。



北岡 智哉

野村証券株式会社
市場戦略リサーチ部 チーフ・エクイティ・ストラテジスト

2000年東京大学教養学部卒業後、野村証券入社。金融経済研究所にて株式ストラテジストとしてマクロ、ファクター、需給、業績に関連する投資戦略のリサーチに従事。内外の証券会社でストラテジスト、エコノミストを経験し、経済産業省などを経て2021年より野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティングCIOマネジメント部で機動的資産配分(TAA)を担当。2024年4月より現職。



棚橋 研悟

野村証券株式会社
経済調査部 エコノミスト

2015年慶應義塾大学経済学部卒業後、野村証券入社。以来一貫して日本経済の分析を担当。2024年米コロンビア大学SIPAIにてMPA(Master of Public Administration)を取得。

モデレーター：



高田 晴夏

野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社(NFRC)
フィデューシャリー・マネジメント部 コンサルタント

2017年京都大学総合人間学部卒業後、野村証券入社。野村証券フィデューシャリー・マネジメント部にて公的年金向け運用コンサルティングおよび海外資産運用動向、ESG投資の分野を中心に年金運用に関するリサーチを行う。2021年12月より現職。

14:25 – 14:55

Session 2

ファンドを中心としたESG評価 ～ESGレーティングのご紹介～

当社では、2018年度から運用機関やファンドを対象としたESG評価に取り組み、2022年度からはファンドを対象に活用度とクオリティの2軸で評価するESGレーティングを導入しました。このセッションでは、先ず、ESG評価が組み込まれているファンド評価の定性評価体系についてご説明します。次に、ESGレーティングを中心に、直近のレーティング付与状況を含めて、ESG評価の体系・プロセスをご説明します。その後、ESG評価の事例として、実際の評価コメントをご紹介する他、近年におけるESG評価のトピックスを取り上げ、ファンド・アナリストとしての見解をお示しします。



越澤 一

野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社(NFRC)
ファンド分析部 シニア・ファンド・アナリスト

1991年慶應義塾大学文学部卒業後、日本生命保険入社。1994年から同社財務審査部にて企業審査や業界調査等を担当。2001年に野村アセットマネジメントにクレジット・アナリストとして入社。2017年8月より現職。2018年からESG評価プロジェクトに参加し、2024年1月からESGワーキング・グループのリーダー。

15:05 – 15:35

Session 3

豪州投資家の視点による、ESG規制とインパクト投資のトレンド

サステナビリティに関連する2つのトピックを取り上げ、投資家の視点を紹介します。先ずは、標準化されたサステナビリティの開示と報告について、ISSBグローバル・サステナビリティ・レポーティング・スタンダードが日本を含む多くの国々において、どのような変化を促しているかを検証します。また、気候変動に関する報告義務の導入についてオーストラリアのこれまでの経験について説明します。

インパクト投資については、ESG投資との違いについて説明します。また、投資家がポートフォリオの社会的・環境的影響を測定するようになってきていること、一部の投資家が従来のリターン目標とは異なる目標や追加的な目標を設定するようになってきていることについてその背景を検証します。



ジョーイ・アルコック

フロンティア・アドバイザーズ
プリンシパル・コンサルタント、責任投資ヘッド

2005年にフロンティアに入社し、顧客コンサルティング、投資リサーチ、運用会社デューデリジェンスに従事した。一時期当社を離れ、英国系コンサルタントbfinanceにて欧州、北米のクライアントを担当した後、2018年に再び当社に復帰し、責任投資グループの責任者を務める。2023年10月にUNPRIの東京大会に合わせてJapan Study Tourを企画して多くのオーストラリア年金投資家に日本の投資機会を紹介した。メルボルン大学で応用ファイナンス修士号を取得。



トム・ランバート

フロンティア・アドバイザーズ
コンサルタント、責任投資

2002年にコンサルタントとしてフロンティアに入社。資本市場・資産配分チームのメンバーとして、シナリオ分析、内部リスク分析の開発、資産クラスの前提条件の見直しなど、様々な調査活動を支援。特に気候変動への影響に着目し、ESG側面からの投資に強い関心を持つ。当社入社前は、テルストラ(Telstra)社でコンサルティング業務に従事し、価格提案の定量分析を行う。モナシュ大学で応用数学と統計学を専攻し、優等で理学士号を取得。オーストラリア・アクチュアリー協会(Institute of Actuaries of Australia)において多くの単位を修了。



高山 裕一

フロンティア・アドバイザーズ
在日代表

当社以前は、東京海上アセットマネジメントなどにて、主に日本株を中心とした海外事業に従事。それ以前は旧三井信託銀行(現三井住友信託銀行)などにて外国株の運用を担当。1998年から2013年まで主にロンドンで勤務。1990年慶應義塾大学経済学部卒、2000年に英国City University Cass Business Schoolにて経営学修士(MBA)を取得。2016年にCAIA協会日本支部を支部長として設立。公益社団法人日本証券アナリスト協会認定アナリスト、GARP協会認定財務リスクマネージャー。